

キーワードは「主体的」！ 研究だより



互見授業

発行者 小林大介

【TRY シート】

「ねらいや実態に合った教材及び資料を選択し、生徒が興味・関心をもって追究に向かえる授業」

→「適切な教材の開発及び資料選び」

「生徒が学習に向かう際、理解しやすい教材教具の工夫ができていたか」

【本時目標】「幼児の身体の特徴と発達について理解でき、発達には個人差があることに気付く。」

I 「教材・教具・資料」の「開発・選択・工夫」について

【本時で扱ったものと生徒の反応】

① 各自宿題で調べてきた、自分史 WS

2人の生徒が調べてきたものを授業のはじめに発表しました。その後、グループの中で自分史を比べて発言する様子もありました。自分史の違いが、本時のねらいに書かれている「発達には個人差があることに気付く」につながりですね。また、分からないところは親に聞く、これによって学習と生活が結びつきやすくなる、深い学びに近づく（と言っていいですか？田村先生）授業ですね。

② 実際の重さの赤ちゃんの人形

赤ちゃん（人形）が登場しただけで、注目ですね。「これ見せるといつもかわいいと言いますが、どうですか？重さ・身長を確認して回してね」と言って生徒に渡しました。やっぱり、「怖い」「無理」だという声が多かった中、「重っ」という問いかけに答える生徒もいました。全員が回った後、「思ったより軽い？重い？」と問いかけました。この時の生徒の反応を見ると、あまりピンときていないようでした。きっと、赤ちゃんを渡す前に、「受け取る時に重さを想像してみて、思ったより軽いか重いか考えてみて」のような投げかけがあると、ここに着目しやすくなったと思います。



③ WS でも書いてあった、4つの年齢の写真を比較する図



付せんにもありますが、これを考える時、一生懸命生徒が比べている様子がありました。比べるということは、思考の大切なポイントですね。はじめに、スライドで全体に示しましたが、生徒はすでに配られていたプリントを見て先生の問いかけを聞いていました。全体でスライドで違いをいくつか確認して、それ以外にあるかな？とプリントを配るなどすると、全員が同じ目標(?)に向けて学習

している感じがでそうですね。

④ 運動機能の発達のプレート

幼児の身体の特徴から、運動機能について話が変わりました。この点が少し違和感があったのか、付せんにも「0歳から1歳になるにあたり、身長が1.5倍に対して体重が3倍、こんなに増えるのは何でだろう？」という発問をするのはどうだろう？という内容がありました。

幼児ができるようになることを考えている間に、先生がプレートを黒板にはり、どの順番でできるようになるのか準備していました。これは生徒が考えやすくなる手だてになっていました。



⑤ 田村先生のお子さんの VTR

「誰のお子さんでしょう?」と問いかけた後、田村先生と分かる生徒の視線がとても暖かくなりました。もしかしたら、今回の授業で一番生徒の気持ちが熱くなった場面かもしれません。いい資料です!!



以上のことから、今回の授業で扱った教材・教具・資料は、どれも有効に働くものでした。とてもよかったです。できたからこそ、課題が見えてきました。それぞれの部分で書きましたが、これらを「どのように提示するか」によって生徒の反応はまた変わってきたと思います。次への課題は「どのように提示するか」もしくはさらに踏み込んで、「資料をどのように提示し、どのような発問をするか」ということまでいけそうですね。

2 授業やその準備から

- ・先生の話し方、生徒はとても安心して話を聞くことができていました。声の大きさ、高さ、抑揚、まねしなやかです。
- ・授業準備を丁寧にしていました。授業前に教室に行くと、手袋を準備している生徒がほとんどでした。それだけで授業に向かう姿勢ができていたと言えます。
- ・「TRYシート」の裏、見ましたか?本時指導案が載っていました。すばらしい!!(ちょっと突っ込むと、「思考」の場面も本時にはあったように思います)
- ・思考の場面と深い学びの関係が付せんにも書かれていました。本時、実はやりたいこと(押さえないこと)が山ほどあったのだと思います。しかし、思い切ってどれかに絞ってじっくり考えさせる、ということも大切なのかもしれません。「生徒が興味・関心をもって追究できる授業」とあります。追究は=じっくり考えて明らかにすること、と捉えると、絶対に考えさせたい部分に絞って、あとは補足説明で・・・,というような思い切りの良さが、深い学びの実現のためには必要なのかもしれません。

3 付せんより

- ワークシートに追記覧→他の人の考えと自分の考えとを分けて記録できる。
- 年齢ごとの写真を比較する→特徴が捉えやすい
- 根拠を考えさせていたのがよかった。考える時に根拠は大事ですね。
- どうやって成長したのかは、みな興味があり、よく考えていたようでした。「こうじゃない?」「いやこうじゃない?」のような話し合いが見られたので題材に力が感じられた。
- 自分史をそれぞれ宿題でやってきたことはよかった。他の人と比べて平均はどれくらいだろうと考えられる。また人によって違いがあることが分かる。
- 思考する場面が、深い学びとの関係で考えると十分とは言えない。
- スライドの字をもっと大きく

代案 0歳から1歳になるにあたり、身長が1.5倍に対して体重が3倍、こんなに増えるのは何でだろう?

4 おわりに

まり先生、ありがとうございました。先生はいつも謙遜しますが、授業の準備をととても丁寧にして、生徒とのやりとりを大切にされた授業をいつもしていることが、いつも伝わってきます。何より、楽しそうに授業する様子があります。

次への一步として、「提示の仕方」「思考することを絞った授業(題材)構成」を挙げさせていただきました。ぜひ一緒に考えていきましょう!!(いやがらないでください、お願いします)

※研究主任の田村先生の意向を無視して、字ばかりのたよりになってしまう、申し訳ありません。